

## ローム (コード 6963)

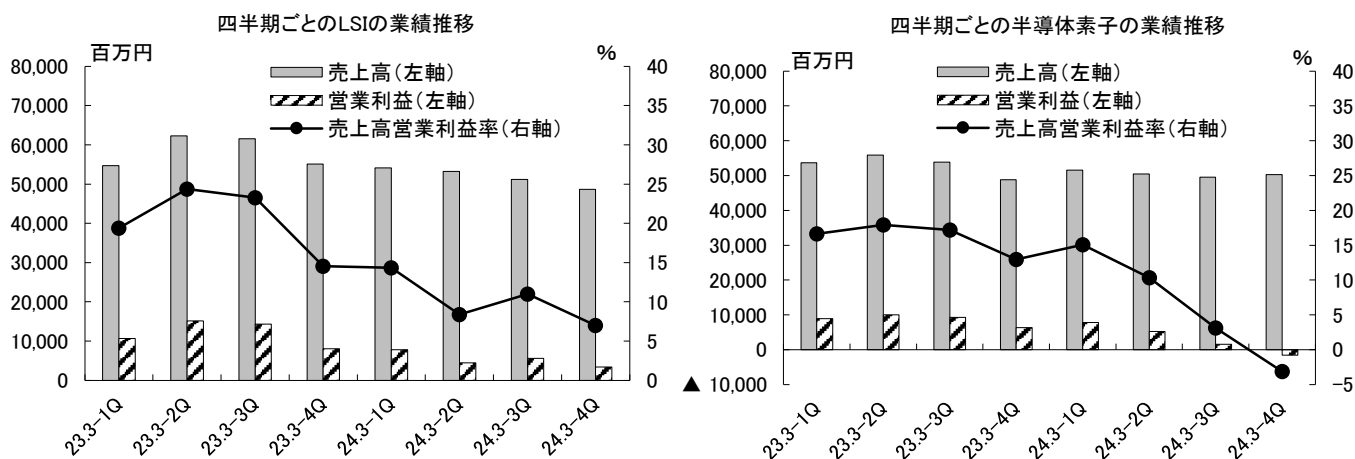
### ◆通期業績推移(連結) (株式分割を考慮。25.3 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.3	452,124	71,479	170.2	46.3	92,181	▲55,437	▲16,230	295,223
23.3	507,882	92,316	204.7	50.0	98,628	▲88,738	▲22,153	294,254
24.3	467,780	43,327	138.8	予50.0	82,858	▲431,952	265,063	228,104
25.3予	480,000	14,000	36.3	50.0	—	—	—	—

### ◆各決算期の第2四半期業績推移(連結) (株式分割を考慮。25.3 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.3	222,657	34,513	78.5	18.8	46,492	▲26,241	▲8,192	273,225
23.3	259,912	50,403	132.8	25.0	51,945	▲58,245	▲11,624	293,187
24.3	239,319	29,833	95.4	25.0	42,901	▲350,903	275,395	276,376
25.3予	225,000	6,000	19.4	25.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)

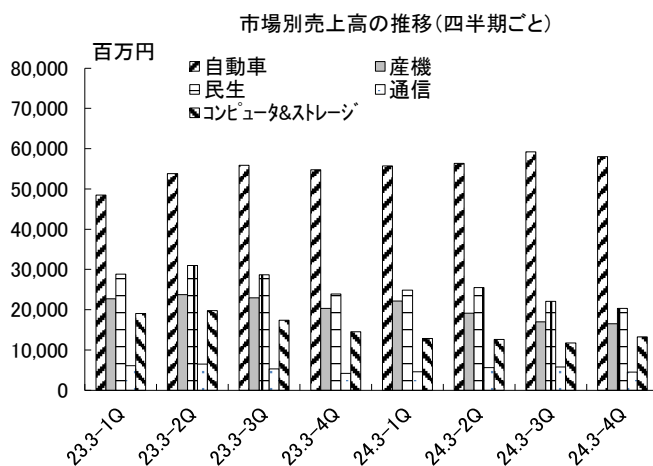


**24年3月期の業績概況**…24年3月期の業績は、注力市場の自動車向けが伸びたものの、産機(産業機器)、民生、通信及びコンピュータ&ストレージ向けが落ち込み、セグメント別では全て減収減益となったことから、全体の売上高は前年に比べて約8%減、営業利益は約53%減となった。

当期の売上高は4,677億8,000万円(23年3月期比7.9%減)、営業利益は433億2,700万円(同53.1%減)、経常利益は692億円(同36.8%減)、親会社株主に帰属する当期純利益(以下、当期純利益)は539億6,500万円(同32.9%減)となった。営業外収益において受取利息60億200万円(同71.0%増)、受取手数料60億円(23年3月期は無し)を計上したことなどにより、経常利益及び当期純利益の減益率は営業利益よりも緩やかとなった。

主なセグメント別で、売上高は、LSI2,072億2,200万円(23年3月期比11.3%減)、半導体素子2,019億4,800万円(同4.8%減)など。利益は、LSI12億6,900万円(同55.8%減)、半導体素子129億6,400万円(同62.5%減)などとなった。また、市場別売上高(同社推定)では、自動車が2,293億6,300万円(同7.7%増)に拡大した一方、産機が747億3,600万円(同16.8%減)、民生が926億7,200万円(同17.5%減)、通信が204億6,500万円(同7.2%減)、コンピュータ&ストレージが505億4,100万円(同28.6%減)に減少。売上高全体に占める自動車向けの比率は49.0%(23年3月期は41.9%)に上昇した。

LSI セグメントにおいては、自動車市場向けで電動車の普及加速に伴ってパワートレイン向け絶縁ゲートドライバ IC が順調に伸び、車載向け LED ドライバ IC、高性能半導体パワースイッチ IPD など他の高付加価値商品も堅調に推移。一方、民生機器市場向けでは省エネ性能エアコン向けモータドライバが好調だったが、AV 機器や白物家電向けを中心に減少。コンピュータ&ストレージ市場では PC 関連や事務機向けのモータドライバ IC 及び電源 IC などが落ち込んだ。半導体素子セグメントでは、トランジスタ、ダイオード、パワーデバイスが自動車市場の電動車向けを中心に好調に推移し、産業機器市場向けでは AI サーバーなど特定の分野で好調だったが、民生及びコンピュータ&ストレージ市場向けは総じて厳しい状況となった。



キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況について、当期末における現金及び現金同等物残高は 2,281 億 400 万円（23 年 3 月期末比 22.5%減）となった。営業活動 CF は、税金等調整前当期純利益 716 億 8,300 万円（23 年 3 月期比 34.5%減）、減価償却費 720 億 6,900 万円（同 28.4%増）、売上債権の減少額 194 億 1,700 万円（同 850.4%増）、たな卸資産の増加額 185 億 4,900 万円（同 48.1%減）、法人税等の支払額 326 億 8,500 万円（同 61.2%増）などにより、828 億 5,800 万円の収入（同 16.0%減）となった。投資活動 CF は、有価証券及び投資有価証券の取得による支出（国内連合による東芝への TOB への参画資金など）3,002 億 6,600 万円（23 年 3 月期は 28 億 5,800 万円）、有形固定資産の取得による支出 1,662 億 7,300 万円（23 年 3 月期比 65.0%増）などにより、4,319 億 5,200 万円の支出（同 386.8%増）になった。財務活動 CF では、配当金の支払額 194 億 6,300 万円（同 5.6%減）、自己株式の取得による支出 200 億 500 万円（23 年 3 月期は 600 万円）、短期借入金の増加額（東芝への TOB への参画資金）3,000 億円（同無し）などにより、2,650 億 6,300 万円の収入（同 221 億 5,300 万円の支出）となった。

**25 年 3 月期の業績見通し**…25 年 3 月期の業績については、売上高 4,800 億円（前期比 2.6%増）、営業利益 140 億円（同 67.7%減）、経常利益 180 億円（同 74.0%減）、当期純利益 140 億円（同 74.1%減）の見通し。会社側では「SiC パワー半導体の生産能力増強に向けた先行投資における償却費などの増加により、一時的な業績の伸び悩みは避けられない」としており、今期の減価償却費は 927 億円（同 28.6%増）に拡大する見込み。

主なセグメント別売上高予想は、LSI 2,123 億円（同 2.5%増）、半導体素子 2,134 億円（同 5.7%増）など、また、市場別売上高予想（同社推定）は、自動車 2,542 億円（同 10.8%増）、産機 657 億円（同 12.1%減）、民生 914 億円（同 1.4%減）、通信 176 億円（同 14.1%減）、コンピュータ&ストレージ 512 億円（同 1.2%増）となっており、自動車向けの売上構成比率は 53.0%（24 年 3 月期は 49.0%）に上昇し、売上高全体の半分を超えてくる見通し。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。